

第4学年 社会科学学習指導案 単元名「住みよいくらしをつくる」

～ごみのしょ理と利用～（全11時間）

1 単元について

私たちの生活の中で、不要な物としてごみが出される。増え続けるごみに対し、近年では日本各地でいろいろな対策が取られている。身近なところでは、スーパーマーケットでの買い物袋持参をすすめ、できるだけレジ袋を使わないようにしている。そのような対策が取られている一方、粗大ごみなどの不法投棄や分別するわずらわしさからくるごみの放置等様々な問題も起こっている。旧高山市ではごみ問題の解決策としてごみシールの導入や分別収集により、ごみの減量化や再利用を図ってきた。合併後、朝日町でもごみシールの導入や分別収集を行っている。

この学習に先立って、総合的な学習の時間に「ごみゼロ！！きれいな朝日町」をテーマにごみ拾いを行ってきた。タバコの吸い殻・お菓子の袋等が多いことに驚き、自分たちが住んでいる朝日町をなんとかきれいにしていきたいという願いをもっている。しかし、ごみを分別して出すという意識が低く、教室でのごみもとりにあえず燃えるごみとして片付けてしまっている様子が見られる。

そこで、本単元においてごみ問題を身近な問題としてとらえ、分別収集することでごみの量が減ったりリサイクルされやすくなったりしていることを実感してほしい。また、ごみ収集や処理をしている方の話を聞くことで、ごみに対する意識を変えごみの減量化や分別していくことの大切さに気づき、自分たちにできることに取り組ませたい。そして、今のくらしの良さについて考え、この住みよいくらしの状態を持ち続けたいという意識をもたせたい。

2 単元の目標

- (1) 生活の中のごみに関心を持ち、対策や事業について意欲的に調べようとする。
(関心・意欲・態度)
- (2) ごみの処理が組織的・計画的に進められていることによって、地域の人々の健康な生活の維持と向上が図られていることを考えることができる。(思考・判断)
- (3) ごみの出し方・処理や再利用の方法などについて、見学したり調査したりしてわかっ

たことを絵、グラフ、文章などにわかりやすく表現することができる。

(観察・資料活用の技能・表現)

- (4) 地域の人々の健康な生活を守るために、ごみの処理と再利用が組織的・計画的に行われていることがわかる。

(知識・理解)

3 研究と関わって

(1) 指導計画、単元構成の工夫

ねらいにせまる人物の教材開発

ごみ問題は、子どもたちにとっても身近な問題である。そこで、まず家庭でのごみについて家族に取材・調査を行うことにした。祖父母や父母の子ども頃のごみ処理方法を聞き取り、今の処理方法について「ありがたい」「めんどうだ」という思いまで取材させたい。そして、現在のごみの種類や処理との違いについて学ばせたい。次に、朝日町でのごみ処理の業務に携わっている方にごみステーションで取材を行いながら、収集の仕方やごみの行方を理解させる。「町の人々が自分で処理しなくてもいいように」「ごみを収集することで町をきれいにしていきたい」という収集に携わる人々の思いにも触れていくようにする。その中で、ごみを収集してくださるおかげで自分たちが衛生的な環境で生活していける点を押さえていきたい。さらに、環境資源課の方に話を聞くことでごみを細かく分別することを理解させる。「細かく分別することでリサイクルでき、ごみも減らすことができるから分別して出してほしい」という環境資源課の方の思いから、限りある資源を大切にすることや今のくらしや環境を維持していきたいと考えさせたい。

社会的事象の意味をとらえる指導計画の作成・単元構成の工夫

単元を貫く課題を「生活の中で出されるごみはどのように処理されていくのだろう」とし、ごみ収集から処理に至るまでの過程を見学したり、携わる人々の願いを聞いたりするなかで、ねらいにせまれるようにした。

また単元の核となる授業(本時)を位置付け、それに向けて各時間の役割を明確にした。本時第9時の学習に、第1時から第8時まで学習してきたことが生かせるような単元構成を目指した。

第1時と第2時では、普段出しているごみの

種類や量に目を向ける。家庭での取材や調査をしていくなかで、ごみはどこでどのように処理されていくのかと問題意識をもつ時間とした。第3時と第4時はごみステーション見学や収集に携わる人々への取材を行う。家庭から出たごみは、収集車によって資源リサイクルセンターへ運ばれていることを知る。そこで、資源リサイクルセンターとはどういう施設なのか疑問をもたせ、第5時から第7時に見学を行うようにした。

第8時では、環境資源課の方に出前講座を依頼し実際にごみを細かく分別してみる。その分別の時に感じたことを、第9時(本時)への課題につなげるようにした。そして、本時では第8時までの既習事項をもとに、課題追究を行えるような単元構成を行った。

第10時と第11時では、それまでの学習をふまえて今の住みよいくらしを続けていくために自分たちにもできることを考え、今後の生活につなげていけるような時間に設定した。

(2) 学習活動の工夫

ねらいを明確にした学習活動の工夫

本時は前時に自分たちが行った分別を思い出し、その時に感じた大変さからどうしてこんなに細かく分別しなければいけないのかという課題が生み出せるようにする。個人や集団追究の場で、今のくらしのよさを守っていくためには細かい分別が大切なのだという、本時のねらいに迫るために資料や問い返しを準備し、考えを深めさせるようにする。練り合いの場では、課題に立ち返って発言させることで、ねらいの焦点化を図るようにする。学習のまとめでは、学んだことや思いを書く時間を保障し、ポイントとなる言葉を使ってねらいに即してまとめさせていきたい。

仲間と練り合う交流活動の工夫

自分の考えをもたせるために、分別しないと埋め立て地が数年でいっぱいになるという数字を示した資料、ごみの量の変化が視覚的に分かるグラフ、ペットボトルやびん・缶が別の物に生まれ変わる絵の提示など子ども達が課題追究しやすいように見てよく分かる資料を提示する。リサイクルセンターの人々が細かい分別をすすめる理由について資料や既習事項から、分別しないと埋め立て地がいっぱいになりごみを集めてもらえない、分別することでごみが減っ

てきた、リサイクルしやすいなどの考えが予想される。ここでは、資料から分かったことしか発言されず、「だから細かく分別しないとイケないんだ。」という自分の考えまで出にくいと思う。そこで、多面的な意見が出たところで「環境資源課の人はしっかり分別してほしいと言われていたけど、何か困ることでもあるのかな」と発問し、課題に立ち返るようにする。もう一度考えることで、考えを深め練り合いが成立する。細かく分けて出さないと、埋め立て地がすぐにいっぱいになり、ごみが処理しきれなくなる。ごみが収集できず、きれいな町でなくなってしまう、というような意見交流が予想される。

そこで、環境資源課の方に「細かく分別することでリサイクルすることができ処理するごみも減らせるし、自分たちの住んでいる町を今のようにきれいにし続けたいから処理の仕事を一生懸命行っている」ということを話してもらおう。

その後、話を聞いた感想を出し、練り合いで深まった自分の考えをノートにまとめていけると考える。

(3) 指導・援助、評価の工夫

調べ考える指導・援助の工夫

身近な問題に目を向けていく学習のため、課題意識はもちやすいと思う。前時の出前講座での話より、「しっかり分けて出さないとどんな困ることがあるか」と問い返す。そこで、資料から分かったことをもとに、だからこうなんだと考えを発言させていくことで、事実に基づいた考えを導きたい。自分の考えがもてない子には、資料の前に来させ見方を支援し、考えがもてるようにする。また、視覚的に訴えるような分かりやすい資料を提示する。子ども達の意見を線で囲んだり、色を使ったりして見やすく板書し、授業の流れを視覚的に理解できるようにしたいと考える。

学びを確かにする相互、自己評価の工夫

課題提示した後、自分の考えをノートに書く。そして、授業の最後に学習のまとめをノートに書くことで、仲間との交流で得た考えや自分の考えの高まりや変容に気付かせたい。

授業の始めに教科係がめあてを話し、授業が終わったところでめあての振り返りを行い学習姿勢を評価するようにしている。